

NPO 法人

第68号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578
TEL 090-4135-3193 FAX 055-288-2722 HP <http://ashiyasu.com> Mail afc3193@nus.ne.jp

研修旅行報告～埼玉・群馬～

芦安ファンクラブ 杉山 弘卓

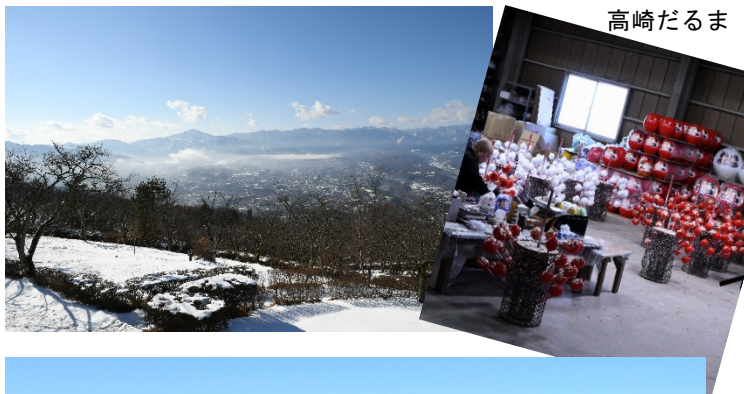
2月4日～5日の研修旅行は15名の参加により、埼玉・群馬両県に足をのびしました。

1日目は埼玉県秩父市周辺で美の山からの秩父盆地、長瀬の岩畳、県立自然の博物館、宝登山とめぐりながら、ガイドの吉田さんから秩父のジオパークについて終日説明を受けました。景観は見るのではなく、読み取るものであると改めて教わりました。その日は妙義山が目に見える群馬県安中市の磯部温泉に宿を取り、会員の親睦を深め、大きな風呂場でゆったり過ごすことができました。

翌日は高崎だるまの製造元に立ち寄り後、2014年に世界遺産の認定がされた富岡製糸場の見学をしました。

富岡製糸場を保有していた片倉工業が、操業停止後も「売らない、貸さない、壊さない」の方針を堅持し、維持と管理に専念したことで、姿をとどめ続けることができたとの説明をガイドさんから聞き、効率を第一とし、合理主義だけで物事を判断する昨今の風潮に対して感じ入るものがありました。

その後、下仁田道の駅やラスクで有名なガトーフェスタハラダ本社工場でお土産を算段し、無事に帰路となりました。2日間とも熱心な解説のガイドさんに当たり、中身の濃い研修旅行でした。



高崎だるま



長瀬の岩畳



美の山公園にて



富岡製糸場

南アルプス学講座から 「南アルプスの山々の魅力④」

前芦安山岳館館長 塩沢久仙

全 11 回の連続講座として開催された「南アルプス学講座」。その中から、故塩沢久仙さんの講座の内容を抜粋してご紹介しています。今回はその 4 回目、南アルプス最高峰、北岳です！

北岳 3193m 南アルプス市



概要

富士山に次ぐ日本第二位の山岳である。間ノ岳、農鳥岳とともに白根（白峰）三山と称され、その最も北にあるため、北岳の名称になったとされる。また一部の地図帳などでは、白根山と記載されているが、これは白根三山を総して呼んでいるものであり、北岳はその最高峰ということになる。なお、甲斐国志には白峰として記述されている。またウエストンは甲斐ヶ根と言う名前呼んでいる。

北岳は野呂川に三方向を囲まれており、北側の野呂川に落ち込む尾根上に小太郎山がある。北岳から南の間ノ岳までは 3000m を越える稜線が続く。東面の大樺沢の斜面は切り立った岩壁となっておりバットレスと呼ばれる。バットレスとは建築用語で「控壁」「胸壁」の意味で、小島烏水によって名付けられた。

歴史

北岳～間ノ岳稜線から

鎌倉時代に書かれたとされる『平家物語』に「手越を過ぎて行きければ、北に遠ざかりて、雪白き山あり。問へば甲斐の白峰と云ふ」とあり、既にその名が知られていたことが窺える（実際には東海道からは見ることはできないため、荒川岳や赤石岳などの南アルプス南部の山岳である可能性が高い）。江戸時代の 1814 年に編纂された『甲斐国志』には「この山は本州第一の高山にして西方の鎮めたり」として登場する。その後『甲斐国志』には白根御池の伝説や山頂に大日如来を奉っている様子が書かれており、既に人々が登っていた可能性が高い。明治時代に北岳に登った小島烏水は「奉納大日如来寛政七年乙卯六月（1795 年）」と彫られた小鉄板があったことを記録しており、これら記述は真実である可能性が高い。

記録の残っている登山史としては、明治 4 年（1871 年）に芦安村の行者、名取直江が前宮、中宮、奥宮を造営して開山したとされる。登山者として最初に登頂を果たしたのはウエストンで、明治 35 年（1902 年）8 月 23 日のことであった。積雪期の初登頂は大正 14 年（1925 年）3 月 22 日、京都三高山岳部のメンバーの西堀栄三郎、桑原武夫、多田政忠、四手井綱彦の 4 人で、野呂川両俣から右俣に入り、間ノ岳を経て頂上に立った。次いで 3 月 28 日、山梨の平賀文男が広河原から第 2 登を飾った。

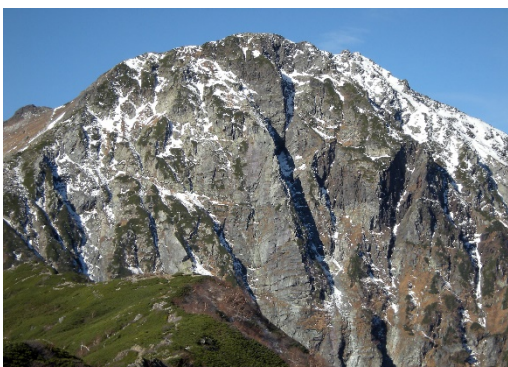
バットレスは昭和初期から初登攀競争の舞台となった。初登攀は京大の高橋健治らによって昭和 2 年（1927 年）に第 5 尾根から行われた。積雪期の初登攀は昭和 9 年（1934 年）に立教大学の浜野正男らが東北尾根から行った。最後まで残った積雪期中央稜に登られたのは戦後の昭和 33 年（1958 年）に奥山章、芳野満彦らによってである。

地形地質

北岳の山体は四万十帯白根層群の緑色岩、チャート、石灰岩や泥岩によって形成されている。南太平洋の海底火山によって形成された緑色岩に、プレートの移動中にチャート、石灰岩や泥岩が堆積し北岳の基盤となる岩石が形成された。その後、今から 1 億 1000 万年前に日本列島に付加され、約 100 万年前からの隆起によって北岳の山体が形成された。

北岳周辺に卓越する白根層群は圧力変成作用が強かったために、泥岩は強い変成を受けている。その中でも北岳の山体はチャートや緑色岩など変成されにくい硬い岩石で出来ており、他の白根層群の南アルプスの山岳に比べて急峻である。このような地質であることからバットレスなどの急峻な岩壁が形成されている。

また、北岳山頂部にはレンズ状に石灰岩の分布がみられる。



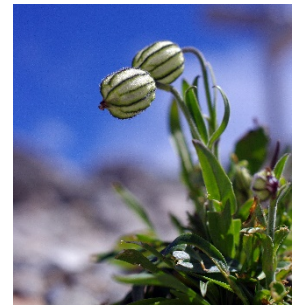
北岳バットレス

動植物

北岳周辺には北岳だけおよび周辺にしか見られない植物や隔離分布している植物種が多く存在する。キタダケデンダ、キタダケトリカブト、キタダケソウ、キタダケキンポウゲ、キタダケナズナ、キタダケリンドウ、キタダケオドリコソウ、キタダケトラノオ、キタダケヨモギ、キタダケイチゴツナギ、キタダケカニツリ、キタダケヤナギラン（ヒメヤナギラン）の 12 種類が存在し、そのほとんどがレッドリストに形成された固有種である。固有種の多くは山頂部の石灰岩地に分布が見られる。それ以外にもシコタンソウ、タカネピランジ、タカネマンテマ、ミヤマハナシノブなど貴重な植物が分布し、これら植物種は氷期の遺存種ともされる。



キタダケソウ



タカネマンテマ

稜線部は風衝側にあたる西斜面は砂礫地が広がっており、その下部にハイマツ低木林がみられる。さらに標高 2600m 以下にはダケカンバ林がみられ、標高 2000m 以下はオオシラビソやシラビソなどの亜高山性針葉樹林となる。一方風背側の東斜面は砂礫地がほとんど見られずハイマツ低木林の範囲も狭い。一方でダケカンバ林が広く見られ、大樺沢では谷全体にみられる。亜高山性針葉樹林は尾根型の斜面や標高 2000m 以下の比較的傾斜の緩い斜面にみられる程度である。雪崩や積雪グライドなどが発生しやすい谷筋には日本有数のヒロハカツラ林が、野呂川源流域の河畔林はオオバヤナギやドロノキなどがみられる。

稜線上のハイマツ低木林を中心にライチョウ、ホシガラス、イワヒバリなどが生息している。また山腹の標高 1000m から 2600m 付近には国の特別天然記念物であるニホンカモシカが、野呂川源流域にはヤマトイワナが生息している。



ライチョウ

【連載】私と「山」と⑧

～中国での山登りを振り返ってI～

芦安ファンクラブ 井口功

今回は中国に5回(延 124 日)行った登山の内、3回行った四川省での山登りを振り返ってみた。

まず 2005 年四川省康南地区、理塘県の山の中に、ロード・ツウ・チベットというチームで行ったことが四川省の山と関わった初めだ。初めカワロレン山(5992m)に登ろうと計画をしていたが、イギリス隊が同時期に登山するので日本隊は遠慮してくれないかと連絡が入り我々は期間が短いことなど考慮し、イギリス隊に譲ることにし、探査地域を、日本人が入っていない地域に行くことに変更した。期間は 9 月 30 日から 10 月 16 日で青木隊長、植松、井口と山梨大学、山梨学院大学の学生達、伊藤、高木、関、橋本の 7 名で実施した。

理塘県は四川省の西隅にあり成都から車で 3 日かかり、チベット自治区に近くまだ未知のところがある山ある興味の尽きない地域で、その一角に入り“謎の湖”のあたりを探査するのを目的とし、ついでにその辺りにある未踏峰に登ることにした。

9 月 30 日、山梨⇒成田 山梨学院大学の渡部教授に送ってもらい成田に泊まった。

10 月 1 日、成田⇒北京⇒成都で中国入り、空港にて中国登山協会の連絡官の李慶さん、スタッフのガオイさん、トウさん、ファンさんと合流。この方達には帰国までお世話になった。

2 日、成都⇒雅江(ヤージャン)

3 日、雅江⇒理塘(リタン)

4 日、理塘⇒工班(川蔵公路の途中)

5 日、工班からいよいよ山に入る。我々 7 名と李慶さん、ガオイさん、現地で雇った馬方 3 名と馬 4 頭、ヤク 11 頭に荷物を託し 5050m の峠を越えて謎の湖の見える 4600m にベースキャンプを作った。移動距離 14km、行動時間 9 時間のかなりハードな 1 日だった。



ベースキャンプから
湖を見る



スークーニャン峰

6日、謎の湖の探査に行った。橋本は体調不良でBC待機、6名でU字谷を下り湖に着いたがいたる所に経文の書かれたタルチョがあるが人の気配がまったく無く不気味だった。

気味が悪いので早々と探査を打ち切りU字谷を遮二無二登ってBCに戻った。

橋本は元気になって近くにある5151mの山に李慶さんと2人で登ったそうだ。その山をバースディピーク（今日が李慶さんの誕生日）と名付けた。

7日、夜半に降った雪で辺りは真っ白であった。今日は5160mの未踏峰に登るため7名でピッケル、アイゼン、ロープやヘルメットなど持って出発した。登るにつれ右奥に6000m級の未踏峰が見えてきた。凄い迫力に思わず見とれてしまった。おそらく中心の高いのが“相丘切克”シャンチョチェクオという6100mの山だろう。登り続け12時30分5160mの山頂に着いた。山自体は困難な所も無くあっけなく登れたが皆で喜びあった。15時30分にBCに帰った。

8日、下山の日、約束の馬方達も現れ準備をしているとガスが抜けていき、周りの凄い山々の景色が現れてきて感動した。峠に登り後は工班までひたすら歩いた。馬方達の支払いで初めの約束よりかなり多く請求され大分もめたが奥地でのことなので相手の言い分で支払った。そんな所に長居は無用と、その日のうち理塘まで行きホテルに泊まった。

9日、今日は雅江に行くだけなので、ゆっくりと美味しいという食堂に行くとパジェロが3台停まっていた。それはイギリス隊のものでカワロレン山（5992m）登山隊が朝食を食べていたのだ。カワロレン山を聖なる山としている崇めている現地の人々に登山を猛反対され実力行使されて仕方なく引き返したそうだ。（チベットのカイラスなども同様に登山禁止されている）我々は走り去る車を複雑な思いで見送った。また車での長い旅で、4000mの峠を3つ越えて雅江に着いた。この日は最高級のホテル（中級ホテルが満員）に泊まった。

10日、雅江から進路を北にとり塔光寺という観光地に寄り昼食をし、そこから暫くで目の前にヤラシン山（6000m）という大きな山が現れ、迫力満点の姿に感動させられた。いつか登りに来て見たい山であった。暗くなる頃丹巴（タンパ）という比較的大きな町に着きホテルに入った。

ここは川に沿った細長い町であった。

11日、この日は北に向かってかなり走り途中から西に進路を変え暫くで日隆（リーロン）という新しい町に着いた。昼食を済ませ展望台まで“四姑娘山”（スークーニャン山）を見に行った。青空にくっきりとそそり立つ四姑娘山にしばし目を奪われた。その後双橋溝に入り、車でいける最奥まで行ったが、凄い山が次々と現れ驚きそして感動の連続だった。五色山（5430m）、借人峰（5360m）、アピ山（5594m）などクライマーには見逃せない山々を眺めて、谷の中の民宿に泊まった。

12日、13日、双橋溝の中程の右側の谷を日帰りで2本入り、岩壁の下まで登り未登攀の岩壁を実感した。数ある大岩壁の一部を山野井さんや大内さん達が登っている。

14日、3泊した民宿と別れ、双橋溝を下り日隆で休み、買い物などし、巴朗山峠（パーロンシャン峠）越えだ。途中の展望台から今日は四姑娘山は雲に隠れ見えなかった。4400mの峠を越えると前方は大雲海であった。長い峠道をぐんぐん下り、途中トイレ休憩したところで羊や豚などの串焼きを食べた。まだまだ峠道を下ったが、途中何台ものトラックが、ブレーキが焼けたのを冷やすため水を掛けているのを見た。昼食を済ませ、1時間ほどの所にある大熊猫苑（パンダ専門の動物園）に寄って、成都に着いたのは夜になっていた。

15日、史跡“三星跡”に行った。ここはおよそ3000年前の遺跡で自然災害で埋もれ、近年に発掘されたそうだが未だ謎の多い遺跡だそうだ。

この夜は今回お世話になった方々とのお別れの食事会で、火鍋屋へいったが物凄い喧騒に私はとても面食らってしまった。16日、成都⇒北京⇒成田⇒山梨 忙しく移動し帰ってきた。



ヤラシン山(6000m 峰)

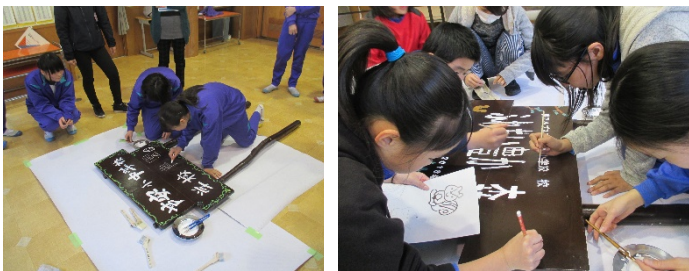
芦安地域おこし協力隊活動報告

芦安小中学校へ間伐材を利用した看板をプレゼント

芦安ファンクラブ 中島 紫穂

2017年9月29日に学校林での間伐を、芦安地域おこし協力隊もお手伝いさせていただきました。その際に出た間伐材を看板の支柱に利用し、芦安ファンクラブ会員でもある中島が、学校農園と学校林の看板を製作しました。

年が明けた2月15日に看板の盤面を小学校5、6年生と中学1、2年生に手書きで書いてもらいました。とても暖かみのある看板に仕上がりました。



看板の裏側には関わってくれた児童や生徒たちの名前を記入してもらいました。出来上がった看板は農園前と学校林入り口にみんなで設置しました。

春になればまた自然学習や農場への植え付けが始まります。芦安地域おこし協力隊も子どもたちの学習と一緒に関わらせていただく事になりました。この看板を前に一緒に活動する事が、今から楽しみです。



一橋大学山岳部OB針葉樹会 宮武幸久さんを偲んで

宮武幸久様の突然の御逝去に改めてご冥福をお祈りし、哀悼の意を表します。昨年末の上野原坪山での遭難事故はリアルタイムで承知していました。「低山でもこんな大事故になることもあるんだな、気を付けなければいけないな」と山仲間とも意を新たにしました。しかしその中の一人が宮武さんとは夢にも思わず、年を越してしまいました。1月5日に周囲より聞き、急いで針葉樹会の小島さんに連絡をして内容を確認させていただき、その日が葬儀だったことも知りました。突然の訃報に会員一同心を痛めました。

宮武さんは針葉樹会の次期リーダーとして期待され、私共の活動エリアである夜叉神峠周辺の桧尾峠～高谷山～カンバ平周辺の登山道整備に献身的な活動をしていただきました。作業時には私もご一緒させていただき、汗にまみれた明るい笑顔に大変癒され、ありがたく思い、感謝していました。また賛助会員としてファンクラブ通信に原稿を寄せていただき、よき先輩でもありました。本当に残念でなりません。先日奥様と電話でお話した時に、「主人は本当に山梨へ行くのが楽しくてしょうがない様子でしたよ」と言われました。ほとんどが重い資材のボッカやきつい作業ばかりだったはずなのに…と思うともっともっと心行くまで山を楽しんでほしかったと悔やまれてなりません。合同の登山道整備は今年も実施する方向で考えていますが、宮武さんの姿がみられないのは大変寂しく思います。我々としてもまさかの現実になすすべもありませんが、せめてもの供養として今後の山の安全を改めて誓い合い、少しでも安全登山が確かなものになるよう努めて行きたいと思います。終わりに御家族様が一日も早くこの失意からご回復されますことを祈念いたします。合掌



特定非営利活動法人 芦安ファンクラブ 会長 清水准一

平成30年度 登山教室のご案内



南アルプスは、ユネスコエコパークの認定を受け、豊かな自然と生活環境を未来に引き継ぐモデル地域として様々な活動を展開しています。

芦安ファンクラブも登山教室を通じ広く発信していきます。一緒に楽しみましょう。

コース一覧 募集人員 各コースとも20名 最小催行人員 5名

回数 種類	開催日 / 集合時間	目的地 / コース説明	宿泊	難易度	申込
	集合場所 / 参加経費		登山口	特殊な装備	期限
第46回 鳳凰山					
2日コース	6月9日(土)6月10日(日) 集合午前7時00分・山岳館 19,000円	Aコース(薬師岳～観音岳) 絶滅したといわれた鳳凰山のライチョウが、近年連続して発見されています。当会のガイドと雷鳥の生息地を訪ねます。	薬師岳小屋 1泊 夜叉神登山口	中級者向き	6月1日
3日コース	6月9日(土)～6月11日(月) 集合午前7時00分・山岳館 31,000円	Bコース(薬師岳～観音岳～地藏岳) 上記のコースを3日間かけてゆっくり楽しめます。帰路には辻山への展望オプションコースも加えました。	南御室小屋泊 薬師小屋泊 夜叉神登山口	初、中級者向き	(金)
第47回 北岳 お花畑めぐり					
2日コース	7月11日(水)7月12日(木) 集合午前5時00分・山岳館 19,000円	百花繚乱 北岳のお花畑にご案内します 北岳 大樺沢右俣コース	北岳肩の小屋 1泊 広河原	中級者向き 1,700mの高度差 体力必要 軽アイゼン	7月6日
3日コース	7月11日(水)～7月13日(金) 集合午前9時30分・山岳館 31,000円	百花繚乱 北岳のお花畑にご案内します 北岳 大樺沢右俣コース→草スベリ	白根御池小屋 2泊 広河原	初、中級者向き 軽アイゼン	(金)
第48回 栗沢山／甲斐駒ヶ岳					
栗沢山 コース	9月29日(土)9月30日(日) 集合午後1時00分・山岳館 21,000円	栗沢山 甲斐駒ヶ岳が迫ります！ 秀峰甲斐駒ヶ岳の絶景ビューポイント	北沢長衛小屋 1泊 北沢峠	初中級者向き	9月21日
甲斐駒ヶ岳 コース	9月29日(土)9月30日(日) 集合午後1時00分・山岳館 21,000円	甲斐駒ヶ岳 花崗岩と紅葉、黄葉を訪ねて！ 各所で地球の歴史を解説します。	北沢長衛小屋 1泊 北沢峠	中級者向き 体力必要	(金)

- 参加経費は、当日受付でお支払いください。参加費には宿泊費・2日目(3日目)昼食代・保険料・乗合タクシー代金・登山後の温泉入浴料・ガイド料金諸経費を含んでいます。申込後実施要綱をお送りします。
- 初日の昼食は、各自でご用意ください。

NPO法人芦安ファンクラブは、南アルプス市芦安山岳館との共催で登山教室を開催しています。登山教室は一人でもグループでも参加を受け付けています。当会の登山教室は実践を通して、安全で楽しい登山をするための技術や知識を学んでいます。多くの皆様のお申込みをお待ちしています。

■申し込み・問い合わせ先

- ◆芦安山岳館 〒400-0241 山梨県南アルプス市芦安芦倉1570番地
- ◆Tel 055(288)2125 Fax 055(288)2162
- ◆http://ashiyasu.com ◆メール afc3193@nus.ne.jp

■申込方法 所定の申込用紙にご記入の上、FAX又はメールでお申込ください。
トラブル回避のため電話での申込は受け付けません。

■登山教室の前後日に芦安温泉施設(一部を除く)の宿泊を希望する場合、申し込み時にご予約された方に限り、宿泊料1割引サービスを致します。申し込み時に必ずご予約下さい。

平成30年度 南アルプス・芦安登山教室申込書

※申し込みは、各人ごとをお願いします。

※希望するコースに○をつけてください。

※各コースとも定員は20名先着順です。

第46回	2日コース	6/9(土)～6/10(日)	鳳凰二山(薬師岳、観音岳)
	3日コース	6/9(土)～6/11(月)	鳳凰三山(薬師岳、観音岳、地藏岳)
第47回	2日コース	7/11(水)～7/12(木)	北岳 (百花繚乱のお花畑にご案内します)
	3日コース	7/11(水)～7/13(金)	
第48回	栗沢山コース	9/29(土)～9/30(日)	栗沢山登山(南ア北部のビューポイント)
	甲斐駒ヶ岳コース		甲斐駒ヶ岳登山(花崗岩の秀峰と紅葉)
備考 ※グループでお申込の場合は、この欄に、ご同行者様の氏名をご記入ください。			
御同行者名			計 名

※該当するところに、記入または○をつけてください

ふりがな			昭和 平成	年	月	日
氏名						
住所	〒		生年 月日	(年齢 歳)		
				性別	男	・
電話番号 FAX番号	自宅	【FAX】				
	携帯					
	緊急時連絡先	【連絡者氏名】		【電話番号】		
メールアドレス	パソコン					
	携帯					
体力度(自己判断)	弱い	やや弱い	普通	やや強い	強い	
健康状態						
山行履歴	◆登山暦 年					
	◆最近1年間の主な山行暦をご記入ください。(例) 富士山 山頂まで 平成24年8月					
その他	◆芦安温泉施設での前泊を希望しますか。 希望する ・ 希望しない 【第 回】					
	◆その他質問等ありましたらご記入ください。					

【注】申込みに際して、次の事項を遵守してください。

1. ガイドの指示に従い、ガイドの示す注意事項を守ってください。
2. 安全のため、コースの変更など予定を変更することがあります。予定変更に従ってください。
3. 健康管理は、自ら責任を持ち、体調を整えて参加してください。